

核データセンタ設立への途

核データ研究室の発足にあたって

百田光雄 (日本原子力研究所)

昨年11月の本誌才6号掲載の小文「核データセンタの設立について」に、「各方面の関係の方々の要望と支援激励により、本年度から原研内に核データセンタが設立される見通しが濃くなった」旨記したが、現実はこれより一步後退した形で、本年6月1日に原研物理部の中に核データ研究室が発足した。

新たに発足した研究室は専属の研究員2名、所内から兼務の研究員5名、非常勤客員研究員1名、臨時の事務担当者1名と同補助者1名のはなはだ貧弱な陣容ではあるが、しかしその陣容はおいおいに充実されるであろうので、まずはその誕生をお喜びいただきたい。

原研内部のことに紙面を費すことはいささか当を得ないところであるが、原研内における「センタ」と「研究室」の区別は前者はいわゆる業務的な仕事を主に行なうところであり、後者は文字の通り研究を行なうところである。この性格の区別により両者の間には人員構成、予算構成の上で相違があり、「研究室」では業務的な仕事は行ないにくい。(不可能というわけではない。)しかしながら当面の陣容では従来より著しく多い業務的な仕事を消化できるわけではないので、この「研究室」と「センタ」の相違はさしあたって重大なことではないと考えられる。

前出の小文にも記したように、現在のシグマ委員会の3つのワーキンググループの仕事をたゞちに核データ研究室で引き継ぐということは不可能なことであり、核データ研究室はワーキンググループの仕事の中核になるような研究と、ワーキンググループの仕事を推進するためのサービス、国内国際の情報の収集交換の業務を行ないつゝ、次才に核データセンタとしての実を具えてゆくようにしたいと考えている。関係の方々の御指導と御鞭撻をお願いする次才である。